

ひとりの自由

加藤静子（予科 21-7
加藤貞夫夫人、豊橋市）

この書は加藤静子様（陸士60期予科21-7、航空12-3故加藤貞夫君ご夫人）の書かれた書である。

この書を書かれた経緯を貼付のお手紙から次に要約する。（編集子注）

『主人が亡くなりましてもう七年になります。私はシベリア抑留中に死亡した父亡き後、私たちを育ててくれた母の介護、主人の介護、娘、孫達の世話、家庭のあるときは自分よりも家族としての家を大事にして動いてきました私が母も主人も見送りひとりになった時「ひとりの自由」というものを知りました。主人の元気な頃は豊川市

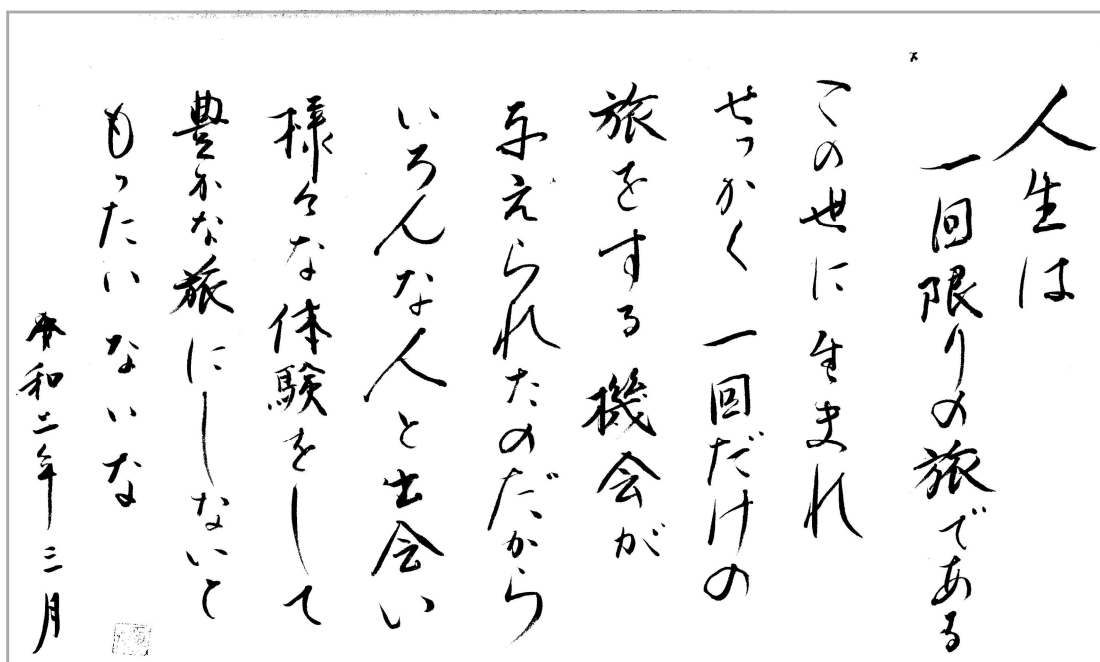
から毎年全国大会、予科区隊会、航空区隊会に主人と共に参加させて頂いて、本当に私にはもったいない程にご立派な方々の御仲間に入れていただいたこと感謝しかありません。



後列左より 東夫人 江上夫人 加藤夫人 佐藤卓史君 佐藤夫人 川島
前列左より 清水夫人 清水 江上 加藤 柴田 但し東本人、川島・柴田夫人欠席

平成20年名古屋全国総会21-7区隊集合

最近読んだ本の中から良い言葉を、老いの学習のつもりで、書いております。この書は癌研科長の清水研さんの著書「もしも一年後この世にいないとしたら」文響社発行の中から見つけた言葉でデイケアのお部屋に貼って頂いています。』



加藤静子書（注：御父上加藤重治様は関東軍牡丹江部隊所属、終戦時ソ連軍の捕虜としてシベリア・ウオシロフ収容所に収容され、21年1月戦病死、靖国神社に合祀される。